

令和5年度第4回公立大学法人滋賀県立大学経営協議会 議事録

日時・場所 : 令和5年12月11日(月)13時30分～15時20分 教授会室
出席者(対面) : 井手理事長、宮川副理事長、小泉理事、松岡理事、中嶋理事、伊藤委員
出席者(オンライン) : 石井委員、小倉委員、北川委員、塚本委員、山崎委員
欠席者 : なし
事務局 : 澤野事務局次長、山田総務課長、高木財務課長、寺村経営企画課長、川分学生・就職支援課長、郡田教務課長、山中地域連携・研究支援課長、堀江高等専門学校開設準備室長、経営企画課 加藤主幹、岡主事

【審議事項】

(1) 令和5年度補正予算(案)について

高木財務課長より、資料に基づき説明があり、審議の結果、原案のとおり承認された。

[主な質疑・意見等]

・学生の健康診断について、従来の健康診断の項目に、診療内科・精神科的な心の健康に関する項目も加えて実施することはできないか。

→ 現在実施している健康診断は内科的な検診であり、医者の確保やコスト面等の課題がありメンタルヘルスに関する内容は含まれていない。学生に対しては常設の学生相談室があることを周知し、利用を促している。

(2) 第4期中期計画(案)について

寺村経営企画課長より、資料に基づき説明があり、審議の結果、いただいた意見を踏まえて再検討し、手続きを進めることとされた。

[主な質疑・意見等]

・社会で活躍しているOB・OGの姿を在学生在が知る機会を増やすことは良いことだと思うが、就職した後の姿だけではなく、就職が決まった在在学生から後輩へ就職活動の体験を直接伝えるような取り組みをしてはどうか。

→ 本年10月に行った保護者向けの説明会では、各学部から1名ずつ就職が決まった学生が登壇し、自らの就職活動体験を語ってもらう時間を設けた。今後も、就職活動の経験を先輩から後輩へ伝える場を設けることを検討してまいりたい。

・中期計画(案)は全体的に良いものになっていると感じる。

・「グローバル社会に対応できる人材を育成する」ということについては、是非

とも充実していただきたい。教員からも意見が多く出されるなど強い問題意識があると説明があったので、積極的に取り組んでいただきたい。

- ・海外大学との交流についても重要だと思う。日本の GDP はドイツに抜かれて世界で第 4 位になった。ドイツでは中小企業で輸出を手掛けている会社が 19.2%あるのに対して日本では 2.8%と差がついている。国際化は産業界でも強い危機意識持っているので、大学も積極的に取り組んでいただきたい。

- ・予算として産学連携等研究収入の金額が記載されているが、これは目標額なのか実績額を基準としたものなのか。
 - 今年度の実績を元に、現状維持を目標に値を記載している。
- ・目標として掲げているものであり、産学連携のニーズもあると思うので、是非とも産学連携の拡充に向けて取り組んでいただきたい。産業界としても「産」の側からの取り組みも十分ではないと考えている。お互い意識を高く持って努力していくことが必要だと思うので強調しておきたい。
 - ご意見として承る。高等専門学校開設にあたっては、また違った視点からの産学連携の形もあると思うので、本学としても努力してまいりたい。

- ・「自己評価等に関する目標」の項目の中で「自己点検評価の実施」について記載されているが、それと「教育の内部質保証」とが、どのように繋がっているのかわかるような記述としてはどうか。
 - 教育の質保証（教学マネジメント）については、第 4 期中期計画期間中に取り組むべき重要な課題と認識しており、「教育に関する目標」の項目の中で内部質保証（教学マネジメント）に資する取組についていくつか記述している。「自己評価等に関する目標」の項目の中での記述については検討させていただきたい。

【報告事項】

（1）令和 5 年度中間決算の概要について

高木財務課長より、資料に基づき説明があった。

[主な質疑・意見等]

- ・受託研究費の内訳に、滋賀県知事からのものと福岡大学からのものがあるが、どのような内容かわかる範囲で教えていただきたい。
 - 滋賀県知事からの受託研究は、工業技術センターや琵琶湖環境部からのもの等、複数の所管課からの受託事業の合計金額を記載している。福岡大学からの受託研究は、福岡大学が国のプロジェクトを受託して実施しているもので、その一部が共同研究者である本学の教員に再委託されたものである。

(2) 令和6年度予算要求状況について

高木財務課長より、資料に基づき説明があった。

【資料配布】

(1) 令和5年度卒業・修了予定者の進路内定状況について

(2) 令和6年度滋賀県立大学学校推薦型選抜等特別選抜試験の出願状況について

〔主な質疑・意見等〕

・工学部の材料化学科と機械システム工学科の出願倍率が低い、これは分野によるものなのか。

→ 県内高校を対象とした特別選抜Aでは、人間文化学部の生活栄養学科や人間看護学科といった資格取得ができる学科は安定して倍率が高い傾向にある。それに対してその他の学科、例えば環境科学部の4学科では昨年度は倍率が1.0を下回っていたといった倍率の上下動が見られる。県内高校からの志願が少ないのは県立大学として問題だと考えており、全学入試委員会で入試の在り方について検討を始めたところ。

・開設予定の高等専門学校でも「機械」学科を設置することから、「機械」の分野の志願者が少ないと心配に思う。

→ 特別選抜Aでは出願倍率が年によって低い現象が起こっているが、一般選抜では同様の現象は起こっていない。また、前年に特別選抜の倍率が低かった学科には次の年には志願者が増えるような隔年現象が起こる場合もよくあるので判断が難しい。

とは言え、本学から高校へのPRが不足している点もあると思うので、今後努力してまいりたい。

【その他】

(1) 公立大学法人滋賀県立大学職員給与規程等の改正について

山田総務課長より、資料に基づき説明があり、後日書面審議を行うこととされた。

以上